

9月の予定

- 4日 きっずらんど
- 11日 ビデオ&分級
- 18日 お話&工作
- 25日 ビデオ&分級



チャレンジ！暗誦聖句

さあ、主に立ち返ろう。
 主は私たちを引き裂いたが、
 また、いやし、
 私たちを打ったが、
 また、包んでくださるからだ。
 主は二日の後、私たちを生き返らせ、
 三日目に私たちを立ち上がらせる。
 私たちは、御前に生きるのだ。
 私たちは、知ろう。
 主を知ることがを切に追い求めよう。
 主は暁の光のように、確かに現われ、
 大雨のように、私たちのところに來、
 後の雨のように、地を潤される。

ホセア書 6章1～3節

教会用語ハテナ？

『ホセア書』

ホセアは、紀元前8世紀の北王国イスラエルの預言者です。紀元前722年、北王国は、アッシリアにサマリヤを陥落され、滅びますが、その王国衰退の頃、約40年に渡り、ホセアは用いられました。

ホセアの時代から、200年ほど前、神の民イスラエルの人々は、神に背き、金の子牛を民族の公の神とする王国を建てました。神は、預言者エリヤ、エリシャ、アモスを遣わされましたが、民は、心を固くし、偶像礼拝にとらわれていました。神から離れ、罪を重ね、墮落した生活を続けていたのです。それでも、神はイスラエルを見捨てず、ホセアを遣わされました。

神はホセアに不貞の女ゴメルを娶るように、命じます。ゴメルは初め貞淑であったのですが、後にホセアを捨て、彼女のぜいたくを満足させる男の情婦となります。しかし、ホセアはなおも彼女を愛し、彼女を買い戻しました。その姿は、神のイスラエルへの愛を、象徴しています。

神に背き、偶像を礼拝するイスラエルを、神は決して見放さず、愛し続け、立ち返れ、と言われるのです。14章には、神の愛と赦し、明確に示されています。悔い改めて、神に従う人生をスタートさせるなら、神は喜んで愛し、豊かな実りある生き方を与えてくださるのだと。道は示されています。その道に進む一歩を踏み出すことが、私たちに求められているのです。



加古川福音キリスト教会日曜学校部 発行
 牧師 楠橋 清隆・喜代子
 TEL 079-425-1406

編集後記



『動的平衡』という言葉は「ぞんじでしようか？」

生命は、分子原子レベルでは、絶え間なく生成・消滅を繰り返しています。細胞のレベルで言うと、一年前の私と、今の私は、物質としては、全くの別人です。なのに、なぜ、

「私は、私である」という自己同一性が保たれるのか？

その謎に迫るのが、

『動的平衡』という概念です。青山学院大学教授の、福岡伸一博士がその著書の中で、提示し、各界に衝撃を与えました。

ある時、福岡博士は、特定の遺伝子を持たない、実験用のマウスを作りました。大切な遺伝子が一つ欠けているのだから、何かの異常が出てくるはず…でした。けれどそのマウスはピンピンと生きています。

博士は、考えました。

生命は、欠けたものがあっても、何らかの別の道を見つけて平衡状態を保ち、正常な働きを続けるのではないか。生命とは、あらかじめ融通のきく状態であって、壊しては、不要なものを捨て、新しく生成し、生命を繋いでいくのではないか。

『あなたがたは、古い人をその行ないといっしょに脱ぎ捨てて、新しい人を着たのです。』(コロサイ3章)

生命とは、新しく変えられるもの、『道り主のかたちに似せられてますます新しくされたい』なあと思いつつ、福岡博士の記事を読みました。